

静岡県 IoT 推進ラボの開設

機械電子科 赤堀 篤 望月紀寿 望月建治 橘川義明* 岩崎清斗 山口智之
 研究調整官 鈴木敬明**

Establishment of an IoT competence center in Shizuoka Prefecture

AKAHORI Atsushi, MOCHIDUKI Kazutoshi, MOCHIDUKI Kenji, KITSUKAWA Yoshiaki,
 IWASAKI Kiyoto, YAMAGUCHI Tomoyuki and SUZUKI Taka-aki

Keywords : IoT (Internet of Things), Dissemination, Competence Center, Exhibition

キーワード : IoT (Internet of Things)、普及、推進ラボ、展示

1 はじめに

IoT (Internet of Things) とは、あらゆるものがインターネットに接続されることを意味し、製造分野では、生産設備や製造工程の「見える化」や生産工程の省力化に役立つと期待されている。しかしながら、県内中小企業の多くは、IoTの導入に関心を寄せているものの、費用対効果が見えない、自社のどこに導入すれば良いかわからない、対応できる人材がいらないなど課題を抱えているのが現状である。

そこで、静岡県では、最新の工作機械やIoT接続機器に「見て」「触れて」「試せる」場を提供し、IoT技術を身近に感じてもらい、実習やセミナーを通じて中小企業へのIoT導入を推進するため、令和元年11月

29日に「静岡県IoT推進ラボ」(図1)を開設した。

2 方法

施設整備に当たり、研究所実験棟の一部を改修し、最新技術を展示・体験する「展示体験室」と、実習やセミナー等を行う「IoT研修室」の2室を設置した。

「展示体験室」は、常に最新の状態を保つため、定期的に更新できるよう、公募により協力を得た民間の技術を展示することとした。公募に先立ち、21社を訪問、整備目的や規模、展示することによるメリットなどを説明した。公募期間は令和元年7月19日から同年8月19日とし、8月29日に表1の項目に従って審査を行った。

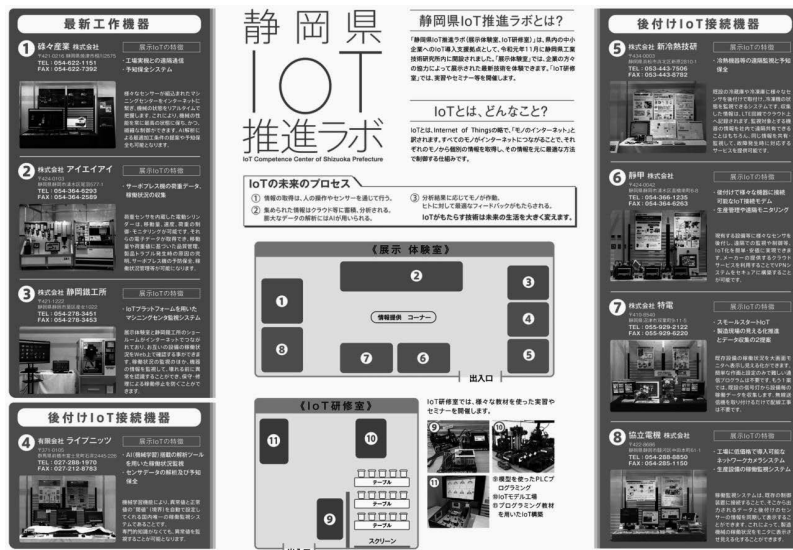


図1 静岡県IoT推進ラボの概要

* 現 企業局 西部事務所
 ** 現 企画調整部

表1 審査項目と内容

	審査項目	審査内容
ア	事業目的との適合性	中小企業がIoT活用のメリットを理解し、IoT導入に向けて自社に役立つ仕組みをイメージできる展示内容か。
イ	県内産業への波及性	静岡県の産業にとって社会的・経済的・技術的ニーズが高い展示内容か。
ウ	講習会・商談会の企画	講習会・商談会の内容が効果的なものとなっているか。
エ	研究所との協力体制	研究所の分担内容は適切か。
オ	業務実施体制	事業を円滑かつ適正に執行できる体制が整っているか。
カ	事業スケジュール	事業スケジュールは妥当であるか。

「IoT 研修室」は、30人規模の座学と20人規模の実習が可能な環境を整備した。



写真1 展示体験室

3 結果

「展示体験室」は、応募した8社いずれも目的、展示内容とも県内中小企業への普及効果が高いと判断され、全て採択された。展示物は、図1に示したように、IoTに対応した工作機械類3社と後付IoT接続機器類5社の技術である。研究所の開所時間に合わせ、平日午前9時から午後5時まで見学が可能であり、研究所の研究員が説明を担当している。

「IoT 研修室」は、簡単なIoT教材を用いた初心者向け実習や、現場の生産設備への接続を想定した中級者向け実習など、企業の習熟度に応じて様々な実習を開催している。



写真2 実習の様子

4 まとめ

開所から3月末までの4か月で企業、各種団体、金融機関等265人の見学者が訪れたほか、3回の実習では、25社35人の企業技術者が参加した(写真1、2)。

今後、出展企業や静岡県IoT研究会と協力してセミナーや実習を開催する計画であり、参加者の募集は、工業技術研究所ホームページで告知する。

なお、展示物の更新は令和2年11月を予定している。

当所では、この施設を有効に活用し、県内中小企業へのIoT技術の導入を推進していきたい。

謝辞

展示体験室への出展に協力いただいている、(株)アイエイアイ、協立電機(株)、(株)静岡鐵工所、(株)新冷熱技研、静岡甲(株)、(株)特電、(有)ライブニッツ、碌々産業(株)にこの場を借りて感謝の意を表す。